

一般社団法人 日本衣料管理協会

2023 年度 事業計画書（案）

概要

当協会は、繊維製品の品質の管理に関する知識および技術の普及向上を図ることにより、繊維製品の生産、流通および消費の改善合理化に寄与するとともに国民の健全な衣生活に資することを目的としている。この目的を実現するために、主に衣料管理士（T A）および繊維製品品質管理士（T E S）の認定、並びにT A・T E S資格者の育成・発展策を推進してきた。

2021年度の当協会創立50周年の大きな節目を経て、2023年度はそれを踏まえて新たなステップを踏み出す年度といえる。当協会事業の二本柱であるT A、T E Sのこれからの認定事業のあり方については、それぞれT Aワーキング、T E S将来構想プロジェクトの検討グループを発足させて、真摯に検討を重ねてきた。それらの成果については、昨年度から実施可能なものから順次実行に移す方向で積極的に推進している。

一方、コロナ禍によりT A養成大学では教育・研究活動が大きく影響され、繊維・ファッション産業においても倒産や大量閉店などが散見されるが、政府方針により来る5月には新型コロナウイルス感染症が2類から5類への配置換えも予定されており、厳しい環境ながらも新たな展開も期待できる状況にある。

このような情勢の下、今年度は次の節目に向けて、T A、T E S制度の足場を強固に固める年度と位置付けたい。

I. 2023 年度事業計画のポイント

1. 衣料管理士（T A）のレベルアップ、認知度向上、活性化を図る

衣料管理士（T A）の養成環境は、18歳人口の減少、大学・短期大学における被服学科の減少などにより深刻化しているが、各大学が持ち味を発揮し工夫しながら対応している。

当協会は、T Aワーキングの検討結果をもとに、T A養成コースの学生の自覚とレベルアップを目指し、2023年度より卒業前に『最終試験』の導入を決定した。また、1級T A取得の大学院修了生のために専修資格を導入し、より専門的に繊維・ファッション・流通・消費などの関連分野を学んだ学生のモチベーションを高めることを目指した。さらに、より社会で役立つ資格となるようT Aの認定基準を見直し、一人でも多くのT Aが繊維・ファッション関連業界に就職できるよう広報活動も推進したい。その意味で、2023年度はT A制度の足場を固める年度と位置づけたい。

2. 繊維製品品質管理士（T E S）の社会的価値を高めるために、将来構想の成果を可能なものから順次実行に移す

T E Sは繊維・ファッション業界に浸透しつつあるものの、さらに社会的価値・認知度を高めることが必要で、それにはまだ開拓の余地がある。T E Sが社会で果たすことのできる役割、社会がT E Sに求めている役割などを考えながら、T E Sの価値の向上、T E S資格者のレベルアップ、社会へのPRなどに関し、T E S将来構想プロジェクトで検討してきたが、その成果を可能なものから順次実行に移していきたい。そして、T E S資格が社会でより一層認知され、評価されるよう、2023年度はT E S制度の足場を固める年度としたい。

Ⅱ. 具体的活動計画

1. 衣料管理士（T A）関連事業

（1）T Aワーキング〔基準部会、大学部会〕

T Aワーキング（2020年10月発足）では、T Aの質の向上、認知度の向上、資格制度の見直しなどを行い、大学を卒業したT Aが社会の様々な分野で活躍できるように検討を重ねてきた。また、本年度も（一社）日本アパレル・ファッション産業協会など他団体と連携し、T AのPRを進める。

①最終試験の実施

材料、加工・整理、企画・設計・生産、流通・消費の4分野について200問程度の問題集を作成・送付し、各大学では、最終試験を実施する目的などを学生に周知し、2023年度から実施できる見込みである。何か実施上の問題が発生すれば、早急に対応する。

②専修資格制度の導入

2022年度の導入に向けて、各大学院へ周知し、すでに実施済みである。改善すべき点が発生すれば、早急に検討したい。

（2）年次報告書の審査〔大学部会〕

大学からの年次報告書に基づき、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など関係事項を審査基準に従って審査する。

時期	内容
6月末日	報告書の提出締め切り
8月初旬	審査
9月	結果通知の送付

（3）T A資格の認定

認定大学において、協会認定・登録カリキュラムを履修して卒業した学生に交付する。

時期	内容
11月初旬	認定証交付申請要領の大学への送付
2024年2月上旬	認定証交付申請書の提出締め切り
2024年3月31日	認定日

※「テキスタイルアドバイザー実習」については、2024年度までの暫定措置として「実施することを推奨するものの、1級T Aの必修とはしない」こととする。2025年度からの措置については、今後検討する。

この措置により、1級T Aの認定に必要な単位数は、必修科目が24単位から23単位、選択科目を含めた単位数は43単位から42単位となる（T A実習の単位数分を減ずる）。

（4）「T Aの集い」活動への支援〔T A部会〕

T A有資格者が関東、中部、関西の3支部において、会員相互の情報交換および自己研さんのために、勉強会や見学会などを実施している。T Aが能力を向上させ、ビジネススキルを磨くことにより社会で活躍できるようにサポートする。

（5）T A交流プロジェクト〔T A部会：T A交流プロジェクト〕

学生に対して社会で活躍するT Aが、資格取得の意義、社会で役立つ知識、就職活動などの経験談を伝え、学生のT A取得に対するモチベーションを高めて、T A取得希望者を増やすことを目的としている。担当は、T Aの集い幹事、T A資格を有する常任委員を中心に実施

しているが、2023年度も映像によるコミュニケーションを継続する。コロナが収束し対面授業ができる状況が訪れた場合には、大学の要請により対面での交流会も模索したい。

2. 繊維製品品質管理士（TES）関連事業

(1) TES試験の実施・認定・登録〔TES試験委員会〕

①新規登録試験（第42回）

日程	内容
4月1日	要項公示
5月1日～5月20日	出願受付
7月9日	試験日 【試験場】 ・東京試験場……実践女子大学 ・名古屋試験場……ウイックあいち ・関西試験場……京都女子大学 ・福井試験場……福井大学文京キャンパス ・倉敷試験場……倉敷ファッションセンター ・福岡試験場……JR博多シティ会議室
9月中旬	合否判定
9月中旬	合否通知
10月5日	登録申請受付締め切り
11月1日	認定日

②登録更新試験（第2期、7期、12期、17期、22期、27期、32期、37期の1,513人が対象）

登録更新試験免除者は743人、登録更新試験受験者は770人である。

日程	内容
3月中旬	試験要領通知
4月1日～4月15日	代替措置受付
4月下旬	代替措置可否の通知
6月1日～6月末日	試験受付
9月上旬	合否判定
9月中旬	合否通知
10月5日	更新申請受付締め切り
11月1日	認定日

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の更新該当者の代替措置の申請に必要なTES会参加実績8回を7回に変更する。

(2) TES将来構想プロジェクト〔TES試験委員会、TES部会〕

中長期的な視野に立ち、企業や社会からTESに何が求められているのか、これからのTESのあるべき姿、制度、試験内容などについて、プロジェクトチーム（2020年12月発足）で検討を重ねており、可能なものは適宜実行に移していく。今年度は、TES受験のためのテキスト「繊維製品の基礎知識シリーズ」の発刊を実現する。

〔プロジェクトメンバー〕

島崎恒藏副会長、永野暁副会長、藤田雅夫委員、金森久由委員、清嶋展弘委員、永野孝志委員

(3) TES会活動への支援〔TES部会〕

①各支部活動への支援

東日本・中部・西日本（九州を含む）・北陸・中国支部における勉強会、研究会、見学会などの自己研さん活動、およびTES相互の情報交流が活発に推進できるようTES会活動を支援する。

②関連する行政機関との連携

経済産業省や消費者庁との情報交換会を開催し、最新情報を入手するとともに行政との連携を強化する。

③『TES会通信』の発行（4月、6月、8月、10月、12月、2024年2月）

3. 出版事業〔出版部会〕

(1) TAテキスト

『ファッションビジネスの基礎知識』の発刊

「ファッションビジネス論」、「マーケティング論」、「ファッション販売論」の3つのテキストを1冊にまとめ発刊する。

発刊時期：2023年3月

執筆者：藤田雅夫委員、依田素味委員、大川知子委員、大橋正男委員、吉井健委員

(2) TES試験参考テキスト〔TES試験委員会〕

①『試験問題集（2021年・2022年・2023年分）』発刊（11月）

②『繊維製品の基礎知識シリーズ（新訂5版）』を発刊する。

発刊：2023年11月

編集担当者：第1部…島崎恒藏委員、永野暁委員

第2部…清嶋展弘委員、永野孝志委員

第3部…藤田雅夫委員、金森久宙委員

4. 研修関連事業〔研修部会〕

(1) TA養成教員のためのブラッシュ・アップ講座

候補地は未定であるが、2024年3月に実施する。

5. 調査関連事業〔調査部会〕

衣料の使用実態調査、トピックス調査については、2022年度実施分のデータを分析し、報告書を刊行する。

(1) 衣料の使用実態調査

	2022年度実施分	2023年度実施
対象者	学生…26校、590人	学生…24校、(人数未定)
依頼時期	2022年秋	2023年秋
回収	2023年2月	2024年2月
報告書刊行	2023年11月	2024年11月

(2) トピックス調査

	2022年度実施分	2023年度実施
テーマ	衣服と環境に関する調査	未定
対象者	学生…26校、590人	学生…24校、(人数未定)
依頼時期	2022年秋	2023年秋
回収	2023年2月	2024年2月

報告書刊行	2023年11月	2024年11月
-------	----------	----------

(3) 就職状況調査

3月卒業のTA取得者の就職先を、4月に各大学へ調査を依頼し、その結果を6月にフィードバックする。

6. 広報事業

(1) TA関連〔TA部会〕

高校生・大学生にも理解しやすいパンフレットを作成し、広報活動を推進する。

①大学新入生向け

- ・ポスターやパンフレットを会員大学へ送付する（3月）。
- ・TAに興味をもってもらえるようオープンキャンパスなどで配布する。

②高校生向け

- ・ポスターやパンフレットを全国約1,300の高等学校の家庭科教員へ送付する（5月）。

③業界向け

- ・TES試験のPR企業や団体に、TAパンフレットや印刷物を郵送し、TAの知名度向上および就職先の開拓を図る。
- ・TES会と連携することで、TAの認知度向上を図る。

④日本アパレル・ファッション産業協会などと連携し、情報交換会を開催して、TAのPRを実施する。

⑤SNS（Instagram、Twitter）で、TAおよびTA養成大学について発信する。

(2) TES関連〔TES部会〕

①ポスター、パンフレットを業界団体・企業・行政機関・大学等へ送付し、TESの認知度を高め、受験者を増やす。

<依頼先>

繊維関係（ファッション、インテリア、寝装寝具、産業用）の業界団体・検査機関、繊維業界の企業、ネット企業、ショッピングセンターや駅ビルなどのディベロッパー、国民生活センター・消費生活センター・繊維工業試験場などの行政機関、教育機関（大学・専門学校ほか）など

②企業や団体を訪問し、社会のなかでTESに求められる資質などについて現状を把握する。

③TESの社会的な存在意義を訴え受験を推奨する。

④業界専門誌、学会誌などへ試験実施要項を掲載し広報する。

⑤織研新聞へTES試験問題、解答、合格者の企業一覧などの情報を掲載し広報する。

(3) 会報・ミニ情報の発行〔会報・ミニ情報部会〕

TA、TES、協会事業などを社会（関係先）や会員にPRする。

会報	第200号（4月1日発行） 第201号（7月1日発行） 第202号（10月1日発行） 第203号（2024年1月1日発行）
ミニ情報	4月、6月、8月、10月、12月、2024年2月発行

7. 関係団体等連携事業

次のとおり委員を派遣する。

関係団体等	氏名・役職	任期
日本繊維製品・クリーニング協議会	大橋正男委員 (理事)	2023年6月総会 まで

スガウエザリング技術振興財団 染色堅ろう度関係 JIS 改正原案作成委員会	松村正明(聖徳大学短期大学)	2023年12月末日まで
---------------------------------------	----------------	--------------

その他、繊維の製造・加工・流通関係団体、検査機関等との連携

8. 事務局運営事業

(1) ホームページ活用の推進

- ・ SNSによるTAなどの広報活動
- ・ T E S 会行事案内・変更時のHPの活用
- ・ TAの集い行事案内、変更時のHPの活用
- ・ 書籍申込受付
- ・ 住所変更などの利用促進

(2) 省力化、効率化、働き方改革の推進

- ・ 業務内容の見直し
- ・ 書籍、書類等の整理

(3) 定款・規則・規程等の整備

9. その他

(1) 海外研修旅行【研修・大学部会】

50周年記念事業の一環として、海外研修事業が企画されていたが、世界的なコロナ感染症拡大により2022年度までに実施することができなかった。この海外研修旅行を記念事業とは切り離し、2024年度以降に実施することの可否を検討したい。